



フィリピン 18 スービック自由港環境整備事業

A
B
C
D

スービック自由港区におけるゴミ処分場の改良工事およびゴミ処理機器を整備することにより、ゴミ収集・処理能力の向上を図り、もって同地区への投資促進および衛生環境の向上に寄与する。

承諾額/実行額 10億3,400万円/7億9,800万円
 借款契約調印 1997年3月
 借款契約条件 金利2.5%（コンサルタント部分は2.1%）、
 返済30年（うち据置10年）、一般アンタイト
 貸付完了 2002年7月
 実施機関 スービック湾都市圏開発公社



外部評価者 藤野 淳史（株）コーエイ総合研究所
 現地調査 2004年9月

評価結果

本事業では、オロンガポ市が対象地域から除外されたが、スービック自由港区におけるゴミ処分場の改良工事および機材調達はほぼ計画通りに行われた。スービック湾都市圏開発公社（SBMA）の長官交代等に伴う内部の混乱により、期間は計画を大幅に上回ったが、事業費は計画を下回った。

本事業により同区のゴミ処分可能容量は1997年の10万トン未満から2002年には26万トンに増加し、06年までの対応が可能となった。ゴミ収集能力については、96年にはゴミの発生量を下回っていたが、03年には120トン/日に増強され、増加した発生量（65トン/日）に対応している。

受益者調査では、街中での悪臭について48.2%が「大幅に減少した」「減少した」と回答し、ゴミの不法投棄についても51.8%が「大いに改善した」「改善した」と回答した。また本事業は、配電、上水道整備などのインフラ整備とともに、

人口約3000人、進出企業数約700社の同区への投資促進に貢献しており、直接投資額は98年の259万ドルから03年には416万ドルに増加した。

SBMAは技術および体制面では問題なく、財務面は良好である。第2期事業の円滑な実施により、早期に十分な処分容量を確保するとともに、高く積み上げられたゴミが引き起こす事故を防ぐため、新規処分場の完成次第、既存ゴミ処分場を安全閉鎖することが望まれる。

第三者意見

本事業は最も成功した廃棄物管理処理システムとして有名である。さらなる改善のため、周辺地域の井戸や河川の水質を定期的に点検することが望ましい。

有識者 Ms. Rosalinda Gadugdug-Paredes (NGO)

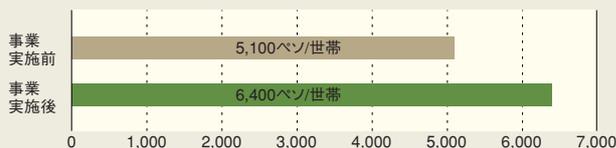
サンカルロス大学修士（心理学）。現在、Feed the Children Philippines, Inc. カントリーディレクター。専門は地方行政、小規模企業育成、沿岸資源管理等。

本事業によるインパクト●水質の改善、ゴミ分別の促進、スカベンジャーの所得向上

本事業により、ゴミ処分場から排出される水質について、マイナスの影響が低減した。スカベンジャー（ゴミの収集・販売で所得を得ている人々）の組織化が図られ、組合を通じてゴミの収集・分別、不法投棄モニタリングが行われた。その結果、ゴミ分別の促進およびスカベンジャーの所得向上・安定化が進んだ。

（野村総合研究所によるインパクト評価）

スカベンジャーの所得の増加（受益者調査より）



スカベンジャーによるゴミの分別